



～おはなしと絵本を楽しむ～

# おはなしグループ「パルランド」通信

第16号

2020年6月



今年の春は新型コロナウイルスのために、これまで当たり前になっていたことが当たり前でなかったことに気づきました。学校が休みになり、おはなし会もなくなりました。不安が渦巻くこんなときだからこそ、ぬくもりのあるあったかい言葉で元気づけてあげたいと思いながら、終息を願う日々でした。

同じ空間で目を見て物語を語り聞く、これまで「当たり前」に思っていたおはなし会。集えない分、YouTubeでも子どもの本の出版社など、子どもたちを応援するいろいろな企画もありますが、やはり同じ空間で相手の反応を確かめながらの、おはなし会が一番！



## おすすめのおはなし

### ヤギとライオン



夏にぴったりの、トリニダード・トバゴの昔話。

夕立にあつてずぶぬれのヤギ。それを見たライオンは、「うちに入って雨宿りをしないか」と声をかける。ヤギがうちに入ると、ライオンはバイオリンを弾きながらこんな歌を歌った。

♪雨の降る日にゃ、うちにいて、  
おいしい肉のおいでをまつさ♪

その肉が自分のことだと気づいたヤギは恐ろしさに震える。けれどもヤギは気を落ち着けて、バイオリンを借りて歌を歌う。

♪昨日殺した一万匹のライオン…♪  
えっ？ヤギがライオンを？



子どもに聞かせる世界の民話  
実業之日本社



## おすすめの絵本

### おどりトラ



韓国・朝鮮の昔話絵本。

山奥に住んでいるトラの中に、踊りの大好きなトラがいて、おどりトラと呼ばれていた。

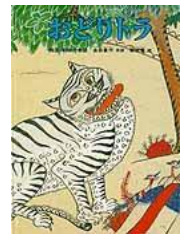
踊りトラは、みんなで獲物を追っている最中に踊りだし獲物を取り逃がして、群れから追い出される。

やがて踊りの腕を磨いたおどりトラは、不思議な力を持つようになった。

ある日踊りトラは仲間のいる山に戻るが…。

韓国・朝鮮の民画風の絵が力強く、  
どこことなくユーモラスでおはなしを  
盛り上げてくれる。

白虎は伝説上の神獣のひとつ。  
大人も楽しめる一冊です。



金森襄作・再話 鄭淑香絵  
福音館書店

私たちがおはなし会で子どもたちに語るおはなしには、昔話が多いです。

それは、昔話が子どもの成長を語るものだからです。日本の昔話には、「こぶとりじい」「はなさかじい」のように、おじいさんやおばあさんが出てくるおはなしが有名ですが、これは実はそんなに多くはありません。明治以来教育的な意図があって、教科書に載ったりしていますが、実は、多くは、子どもが成長し変化する物語が多いのです。

子どもたちは、主人公になりきって、一緒に冒険し成長をしていくのです。現実の中では認識しにくい成長の変化は、短いストーリーの中ではっきりとした変化で現れます。それを疑似体験するのです。そして大人にも、子どもが育つてこういうことだよって示してくれるような気がします。

私たちは、子どもたちの心の栄養になるような、おはなしを選び、覚え、語っています。おはなしを支えている、豊かな日本語と暖かい心は、人類の宝物です。そんな大切な宝物を次の世代へ伝えていきたいと願っています。



～想像の翼を大きく広げて～

## 図書館大きな子のおはなし会

毎月第1土曜日 午前10時30分～  
(30分程度)

おはなしのへやにて

内容：ストーリーテリングと絵本など  
※予約はいりません。お気軽にご参加ください  
ただし図書館が休館のときはありません

耳から聞くおはなしの楽しさを多くの人に届けます。  
興味のある方はぜひ一度聴いてみてください。  
また、ご希望の場所に出かけて、おはなしを語ることも可能です。お気軽にご相談ください。

【おはなし会のお問い合わせ】  
西脇市図書館（電話0795-23-5991）  
パルランド 丸山（電話090-8930-0921）

パルランド通信は「パルランド」が発行しています。

